

紙芝居を鑑賞する幼児への教育的効果

—紙芝居実演時における保育園児の発話分析—

渡 邊 裕

Educational Effects for Nursery School Children while Watching Kamishibai : An Analysis of Nursery School Children's Speech during Performing Kamishibai

WATANABE Hiroshi

キーワード：幼児教育、保育園児、紙芝居実演、
発話分析、ELAN、集中力

1. はじめに

紙芝居や絵本は、幼児や言葉を獲得していく過程において欠かすことのできない重要な児童文化財である。紙芝居と絵本にはそれぞれの特性の違いがあり、保育の現場においてもそれぞれの特性を理解した上で活用することが重要である。

紙芝居は絵本と異なり、観客の前で演じ手が作品を実演するという形式を取る。そのことが結果として、観客に共感の感性をはぐくんでいくことに繋がるのが指摘されている。さらに、紙芝居の舞台を用いて実演することにより、作品に対する集中力を高める効果があることについても指摘されている¹⁾²⁾。柳田（2013）は保育の現場において幼児の集団に紙芝居の実演を行った場合の一幼児の反応行動を調査し、紙芝居が幼児のコミュニケーションを豊かに活性化させる可能性を指摘している。紙芝居の教育的効果はコミュニケーションの活性化の観点から議論されることが多いが、保育園児を対象とした実演の場合には、さまざまな角度からその効果を検討する必要がある。紙芝居の教育的な効果を明らかにするためのアプローチの一つとして、実演時の幼児の発話や行動を詳細に記録してその因果関係を明らかにしていくという方法がある。

本研究ではまず、保育園の現場において保育園児に紙芝居の特性を考慮にいたれた実演を行った。実演の際には紙芝居の舞台を用いた。その結果として園児にどのような効果があるのかについて調査するために、実演の様子を動画撮影し、園児の発話の様子についてアノテーション分析ソフトELAN³⁾を用いて分析を行った。

本研究では、紙芝居の進行に合わせて保育園児が集団の中でどのような発話があったのかを分析すると共に、集団の中で園児たちが集中して無言となる時間やタイミングを測定した。このことから、保育園児が作品に対してどのタイミングで集中力が高まっているのかについて推測する。集団としての無言の時間の長さは、紙芝居実演の際に保育園児が作品に集中する時間の長さを示す可能性があり、紙芝居舞台を使用して演じることの一つの教育的効果を定量的に表す可能性について考察する。

2. 研究の方法

2.1. 紙芝居の実演

2017年1月27日16時～16時30分に埼玉東萌短期大学の2名の教員が都内M保育園を訪れ、3歳～5歳の園児を対象とした紙芝居実演会を開催した。会場は保育園内のホールで実施した。参加した園児数は計83名であり、担当の保育士6名も一緒に参加した。園児の内訳は、3歳児30名、

4歳児27名、5歳児26名であり、3歳児は青、4歳児はオレンジ、5歳児は紫の帽子をかぶってそれぞれ4～5列毎にホールの床に座ってもらい、その様子の全体が分かるように左前方方向から固定ビデオカメラによる撮影を行った。

3回の紙芝居実演を行い、そのうち最初の実演について分析を行った。実演した紙芝居は「こぶたのけんか」⁴⁾であり、実演者は著者（渡邊裕）である。

3歳児は集団の中での社会性が育ってくる年齢にあり、想像力や他の存在への理解が進むといわれる。この作品は2～3歳児向けの、全8場面の作品である。単純なストーリーでわかりやすく、3歳児を含む多くの園児たちに受け入れられるものであると想定した。紙芝居の実演にあたっては専用の舞台を用いた。実演者はマイクを用いず、子どもたちからほど近く見やすい場所に舞台を設置し実演を行った。

2.2. 分析の方法

記録した動画はそれぞれの紙芝居実演ごとにカットして分析データとした。子どもたちの発話や集中の様子を見るために、紙芝居実演前と後の様子についても含めてデータを作成した。分析データはmpeg4形式であり、その長さは5分20秒であった。

動画の分析に用いたアノテーション分析ソフトELANの分析画面を図1に示す。このソフトを用いることで、音の波形から紙芝居実演者や保育園児の発話の長さやタイミング、園児が集中している時間等について測定した。

2.3. 研究倫理に対する配慮

紙芝居実演の撮影にあたっては、事前に保護者への説明を含め保育園長の許可をいただいた。また取得した動画データは研究目的以外には使用しないことや、個人の情報が特定されないよう配慮した上で、研究結果として公表することについて承諾を得た。

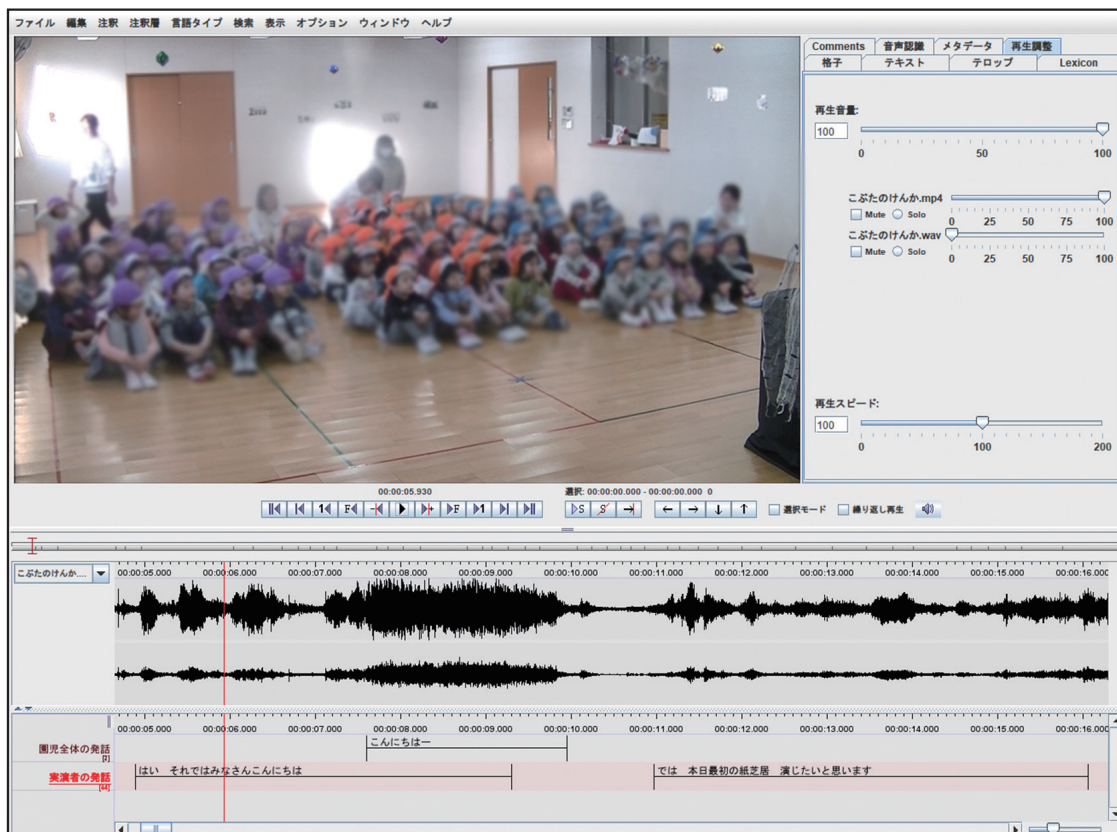


図1 ELANによる動画分析画面

3. 結果

3.1. 発話行動の記述結果

表1に「こぶたのけんか」の実現時における園児行動項目、行動場面番号、紙芝居場面番号、実演者発話、園児の発話と行動についての結果を示す。動画の全データは5分20秒であるが、紙芝居の実演行動が始まるのは開始から34.9秒後であり、実演が終了するのは5分00秒である。したがって、実演の実時間は4分25秒である。

今回の解析では、行動場面の分類として時間や実演者の行動をもとにするのではなく、園児の行動や発話をもとに記述した。園児行動項目では、その時間における園児の行動を端的に表す記述をし、その順番を時系列に付番したものが行動場面の数字である。なお、園児行動項目の中で、特に園児が静かになって全体としての動きが止まり、作品に集中している時間帯にはグレーの色を付けて表した。

紙芝居場面は、第1場面から第8場面までのタイミングを記述した。実演者発話は、実際に実演者が演じた際に発話をした言葉を記述しているため、紙芝居の原作とは異なる言葉も含まれている。また、実演者が行う動作のうち、紙芝居の舞台を開く動作と閉じる動作、および紙芝居を抜いて差し込む動作のタイミングにはグレーで色を付けた。

園児の発話や行動の記録は、3歳児、4歳児、5歳児の別に項目を分け、その違いが明らかである場合にはそれぞれの欄に反応行動を記述した。ただし、誰が発話をしたのかが定かではない場合や全員が発話をしているような場面では、年齢別には分けずに記述している。

行動場面001から005までは、紙芝居の実演が始まるまでの園児たちの様子を見ることができる。園児は紙芝居実演の場所に年齢クラスごとに並んで床に座っており、初回の実演ということもありざわざわとしている。3歳児は比較のおちついており、5歳児の動きがやや大きい。

行動場面006で実演者が「はい では 紙芝居

の はじまりはじまり」と発話しながら両手をたたいて拍手を促すと、園児たちも行動場面007で拍手をして紙芝居が始まる。行動場面008では舞台が開くが、この場面では園児たちの発話はかなり大きく、画面が開いたことに対するわくわく感や期待などが感じられる発話が多い。大人の場合には舞台が開く場面で作品に引き付けられるように感じる観客もいるが、保育園児の場合にはむしろその興奮が発話という行動に出るようである。

第1場面が始まって間もなくすると行動場面009で園児たちは急に静かになる。「こぶた」という言葉に反応し、声に出すのは主に3歳児である。物語が始まると行動場面011で園児たちは静まり舞台の作品を注目するようになる。しかし、しばらくすると行動場面012～013において、身体を小刻みに動かしたり、小さく声を出している園児が見受けられるようになる。

行動場面013の後半で、実演者が紙芝居を抜いて差すという動作のあと、行動場面014で園児たちの動きが止まり、静かになって集中する様子がわかる。第2場面に差し掛かったときの状況である。このあと、行動場面017、行動場面020、行動場面026、行動場面030においても同様に、紙芝居を抜いて差すという動作の直後に園児たちの動きが止まり、静かになる様子が記録されている。

一方で、行動場面023で園児たちが静かになっているタイミングは、実演者が抜いて差すという動作のあとではない。この部分で園児たちが静かになったのは、二ひきのこぶたがお互いに譲らず、どうになってしまうのだろうか、ストーリーの展開に引き込まれているのではないかとも思われる。また行動場面034で集中する場面でも、二ひきのこぶたがお互いに謝っているときの気持ちに引き込まれている可能性がある。

最後の行動場面035～037においては、園児たちの動きがやや大きくなっている。そして実演が終わった039では、紙芝居の感想などを口にする園児たちの発話でざわざわしている様子が記録されている。

表1 「こぶたのけんか」の発話行動

時間	園児行動項目	行動場面	紙芝居場面	実演者発話	3歳児発話(行動)	4歳児発話(行動)	5歳児発話(行動)
0'00"	ざわざわ	001				(ざわざわ)	
0'01"							
0'02"							
0'03"							
0'04"							
0'05"				はい それではみなさん			
0'06"				こんにちは			
0'07"	挨拶をする	002				こんにちはー (座ったままで首をたてに振る)	
0'08"							
0'09"							
0'10"	ざわざわ	003			(顔をあげて前を見る)	(顔をあげて前を見るが、	(やや落ち着きがない)
0'11"				では 本日最初の紙芝居		やや落ち着きのない園児	
0'12"				演じたいと思います		もいる)	
0'13"							
0'14"							
0'15"							
0'16"							
0'17"							
0'18"							
0'19"							
0'20"							
0'21"							
0'22"							
0'23"							
0'24"							
0'25"							
0'26"							
0'27"							
0'28"							
0'29"				それではみなさん			
0'30"	静かになる	004		準備はいいかな？			
0'31"	発話する	005				いーですよー	
0'32"							
0'33"							
0'34"	前を注目する	006		はい では 紙芝居の		(せき込む園児がいる)	
0'35"				はじまりはじまり			
0'36"							
0'37"							
0'38"	拍手する	007				(両手をたたく)	
0'39"							
0'40"							
0'41"							
0'42"							
0'43"	前を見ながら	008		(舞台が開く)		(ざわざわ)	
0'44"	ざわざわする						
0'45"							
0'46"							
0'47"							
0'48"							
0'49"							
0'50"							
0'51"							
0'52"							
0'53"							
0'54"							
0'55"							
0'56"							
0'57"							
0'58"							
0'59"							
1'00"							
1'01"			第1場面	えー 作 高橋五山			
1'02"				絵 赤坂三好			
1'03"	静かになって	009					
1'04"	動きが止まり						
1'05"	前を注目する						
1'06"							
1'07"							
1'08"							
1'09"				こぶたのけんか			
1'10"							

1'11"	発話する園児	010			あれ?こぶた?などと発話する	(前を見ている)
1'12"	が数人いる					
1'13"						
1'14"						
1'15"	静かになって	011			かわのそばの ほそーい	
1'16"	動きが止まり				ほそーい いっほんみち	
1'17"	前を注目する					
1'18"						
1'19"						
1'20"						
1'21"						
1'22"					もりの こぶたちゃんが	
1'23"	画面を見ながら	012				こぶたちゃん、と言って笑う園児がいる
1'24"	発話する園児が				もりの もりのほうから	
1'25"	いる					
1'26"						
1'27"						
1'28"						
1'29"	画面を見ながら	013			ぼっつり ぼっつり	
1'30"	やや身体を動か					
1'31"	す園児がいる					
1'32"						
1'33"					あるいてきました	小さい話声が聞こえる
1'34"						
1'35"						
1'36"						
1'37"						
1'38"					(ぬく)	
1'39"						
1'40"						
1'41"						
1'42"	動きが止まる	014				
1'43"						
1'44"	静かになって	015	第2場面		むらのこぶたちゃんが	
1'45"	動きが止まり					
1'46"	前を注目する					
1'47"						
1'48"					むらのほうから	
1'49"						
1'50"						
1'51"					やっぱり ぼっつり	
1'52"					ぼっつり	
1'53"						
1'54"						
1'55"	静かであるが	016				
1'56"	やや身体を動か					
1'57"	す園児がいる					
1'58"					あるいてきました	
1'59"						
2'00"						
2'01"						
2'02"						
2'03"					(ぬく)	
2'04"	静かに画面に	017				あっと発話する園児がいる
2'05"	集中する					
2'06"						指をさして横の友達に
2'07"						かわいいと話す
2'08"						
2'09"			第3場面		二ひきは ばったり	
2'10"					であいました	
2'11"						
2'12"						
2'13"						
2'14"						

2'15"	画面に注目する	018		ほそーい みちです		
2'16"						
2'17"				すれちがっては		
2'18"				とおれません		
2'19"						
2'20"						
2'21"						
2'22"				二ひきは ならみあって		
2'23"						
2'24"						
2'25"						
2'26"				ふうふう		
2'27"				ふうふうふう と		
2'28"						
2'29"						
2'30"	やや動きが出る	019				
2'31"						
2'32"				うなりました		
2'33"						
2'34"						
2'35"						
2'36"						
2'37"				(ぬく)		
2'38"						
2'39"	静かに画面に	020	第4場面			
2'40"	集中する			ふうふう もとへもどれ		
2'41"						
2'42"						
2'43"						
2'44"						
2'45"						
2'46"					ふうふう おまえがもどれ	
2'47"						
2'48"						
2'49"						
2'50"	やや動きが出る	021		おれはいやだ ふう		
2'51"						
2'52"						
2'53"						
2'54"						
2'55"	笑顔になる	022		おれもいやだ ふう	複数の笑う園児	
2'56"						
2'57"						
2'58"				まねをするな		
2'59"						
3'00"						
3'01"	静かに画面に	023	第5場面			
3'02"	集中する			なにをー！ こうして		
3'03"				やるぞー		
3'04"						
3'05"						
3'06"				(さっとぬく)		
3'07"						
3'08"				まけるものか		
3'09"						
3'10"						
3'11"				えーと うーんと		
3'12"						
3'13"						
3'14"						
3'15"						
3'16"			えーと うーんと			
3'17"						
3'18"						
3'19"						
3'20"						
3'21"			えーと うーんと			
3'22"						
3'23"	笑顔になる	024			横の友達と笑って話す園児	
3'24"						
3'25"						

3'26"	声を出して	025			声を出して笑う
3'27"	笑い出す園児				
3'28"					
3'29"				(さっとぬきながら)	
3'30"				あー！	
3'31"					
3'32"	静かになって	026			小さな話し声をする
3'33"	画面に集中する				
3'34"			第6場面		
3'35"				どぶーん じゃぶーん	
3'36"					
3'37"					
3'38"					
3'39"	横の友人を見な	027			笑顔で大きな声で話す
3'40"	がら声をだす				
3'41"					
3'42"				じゃぶーん！	
3'43"				二ひきのこぶたは	
3'44"				かわのなかにまっさかさま	
3'45"				自分で落ちたのー	
3'46"					
3'47"	画面に注目する	028			静かになる
3'48"					
3'49"					
3'50"					
3'51"	やや動きが出る	029			(大きな声で)
3'52"					へーえ！
3'53"	画面に集中して	030		(ゆっくりぬきながら)	
3'54"	動きが止まる			あー くるしい！	
3'55"				もうちょっとで しぬとこ	
3'56"				だった！	
3'57"					
3'58"					
3'59"					
4'00"					
4'01"	やや動きが出る	031			小さな話し声をする
4'02"					
4'03"					
4'04"	画面に集中する	032	第7場面	おー くるしい	
4'05"				けんかはこりごりだー	
4'06"					
4'07"					
4'08"					小さな話し声をする
4'09"					
4'10"	やや動きが出る	033			
4'11"					
4'12"				もりのこぶたくん	
4'13"				ごめんね	
4'14"	画面に集中する	034			
4'15"					
4'16"					
4'17"					
4'18"				むらのこぶたくん	
4'19"				ごめんね	
4'20"					小さな話し声をする
4'21"					
4'22"					
4'23"					
4'24"				(ぬく)	
4'25"					
4'26"					
4'27"					
4'28"					
4'29"					
4'30"			第8場面	むらのこぶたは、もりの	
4'31"				ほうへ	
4'32"					
4'33"					
4'34"					
4'35"				もりのこぶたは、むらの	
4'36"				ほうへ	
4'37"					
4'38"					

4'39"	やや会話をする	035			
4'40"			また ぽつりぽつり		小さな話し声がする
4'41"	動きが出る	036			
4'42"					
4'43"					
4'44"					
4'45"	動きが大きくなる	037	あるいていきました		
4'46"					
4'47"					
4'48"					
4'49"					
4'50"			おしまい		
4'51"					
4'52"	拍手	038			(両手をたたく)
4'53"			(舞台を閉じる)		
4'54"					
4'55"					
4'56"					
4'57"					
4'58"					
4'59"					
5'00"	ざわざわ	039			(ざわざわ)
5'01"					
5'02"			はい		
5'03"			ありがとうございました		
5'04"					
5'05"					
5'06"					
5'07"					
5'08"					
5'09"					
5'10"					
5'11"					
5'12"					
5'13"					
5'14"					
5'15"					
5'16"					
5'17"					
5'18"					
5'19"					
5'20"					

3.2. 発話行動の記述結果

ELANでは動画に記録されている音声波形から、発話時間を記録したり注釈をつけることが可能である(図2)。この方法を用いて、実演者が

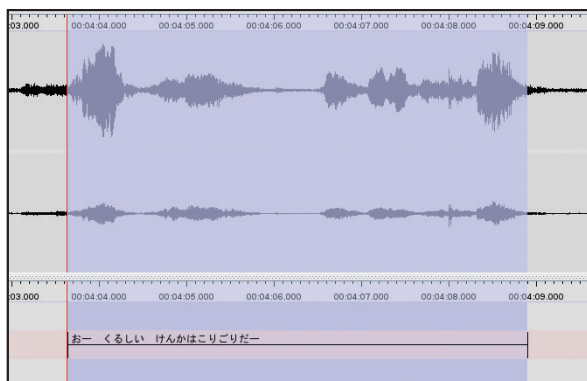


図2 発話の音声波形による発話時間の推定

この紙芝居実演で発話をした時間をまとめた結果を表2に示す。

今回の記録では発話の内容で示されている部分の言葉をすべて言うのにかかる時間を記録している。すなわち、音声波形をみると、言葉と言葉の間に無音が含まれるが、その部分も発話のフレーズの一部とみなして、発話時間としてカウントしていることになる。

「おしまい」の後に、紙芝居の舞台を閉じる動作が含まれるため、紙芝居の実演が終わるのは5分00秒である。開始時間は34.9秒であるので、紙芝居の実演総時間は4分25秒(265秒)である。このうち、実演者が発話している時間は2分8秒(128秒)であり、実演時間全体の48.3%であった。

表2 実演者の発話時間

開始 分：秒	終了 分：秒	発話時間 分：秒	発話の内容
00:34.9	00:40.0	00:05.1	では、かみしばいの はじまりはじまり
01:01.2	01:07.0	00:05.8	えー 作 高橋五山 絵 赤坂三好
01:08.8	01:10.6	00:01.9	こぶたのけんか
01:15.1	01:20.8	00:05.7	かわのそばの ほそーいほそーい いっぽんみち
01:21.6	01:23.5	00:02.0	もりの こぶたちゃんが
01:24.6	01:27.7	00:03.1	もりの もりのほうから
01:28.7	01:31.4	00:02.7	ぼっつり ぼっつり
01:32.9	01:34.4	00:01.5	あるいてきました
01:44.3	01:46.4	00:02.1	むらのこぶたちゃんが
01:47.7	01:49.3	00:01.6	むらのほうから
01:50.7	01:55.1	00:04.4	やっぱり ぼっつり ぼっつり
01:57.1	01:58.7	00:01.7	あるいてきました
02:09.0	02:13.8	00:04.8	二ひきは ばったり 出会いました
02:14.9	02:16.9	00:02.1	ほそーい みちです
02:17.4	02:19.7	00:02.3	すれちがっては とおれません
02:21.9	02:24.5	00:02.6	二ひきは ならみあって
02:25.8	02:30.5	00:04.7	ぶうぶう ぶうぶうぶう と
02:31.6	02:32.8	00:01.2	うなりました
02:41.6	02:44.3	00:02.7	ぶうぶう もとへもどれ
02:45.9	02:48.7	00:02.8	ぶうぶう おまえがもどれ
02:50.5	02:52.8	00:02.3	おれはいやだ ぶう
02:54.6	02:56.5	00:01.9	おれもいやだ ぶう
02:58.0	02:59.3	00:01.4	まねをするな
03:00.4	03:04.7	00:04.3	なにをー！ こうしてやるぞー
03:08.3	03:09.9	00:01.6	まけるものか
03:10.6	03:14.5	00:03.8	えーと うーんと
03:15.9	03:20.2	00:04.2	えーと うーんと
03:21.3	03:25.8	00:04.5	えーと うーんと
03:29.7	03:31.2	00:01.5	あー！
03:34.5	03:37.8	00:03.3	どぶーん じゃぶーん
03:43.0	03:49.2	00:06.3	二ひきのこぶたは かわのなかにまっさかさま
03:53.3	03:59.6	00:06.3	あー くるしい！もうちょっとで しぬとこだった！
04:03.6	04:08.9	00:05.3	おー くるしい けんかはこりごりだー
04:12.2	04:15.9	00:03.7	もりのこぶたくん ごめんね
04:18.0	04:21.7	00:03.7	むらのこぶたくん ごめんね
04:31.1	04:33.9	00:02.9	むらのこぶたは、もりのほうへ
04:35.1	04:38.2	00:03.1	もりのこぶたは、むらのほうへ
04:39.7	04:43.5	00:03.7	また ぼっつりぼっつり
04:45.3	04:47.4	00:02.1	あるいていきました
04:50.2	04:51.8	00:01.6	おしまい
時間計		02:08.0	

同様に、園児が静かに紙芝居に集中している時間を表3に示す。時間の合計は1分49秒(109秒)で、実演時間全体の41.1%に相当することがわかる。

4. 考察と今後の課題

今回の分析により、園児たちが紙芝居に集中している無音の時間には以下の2種類があることが推測される。

一つは、紙芝居が次の場面に移る際に、実演者が抜いて差すという動作をした後の無音時間である。次の場面が何なのかは興味があるため、おのずと画面に集中して無音になることが想像できる

表3 園児が静かに紙芝居に集中している時間

開始 分：秒	終了 分：秒	時間 分：秒
01:03.0	01:09.9	00:06.9
01:15.1	01:22.9	00:07.9
01:42.0	01:54.9	00:12.9
02:04.1	02:14.7	00:10.7
02:39.0	02:49.8	00:10.8
03:01.0	03:22.0	00:21.0
03:31.3	03:37.8	00:06.5
03:53.0	04:00.2	00:07.2
04:14.0	04:38.7	00:24.8
時間計		01:48.6

が、この部分が紙芝居の舞台の使用と関係している可能性がある。すなわち、舞台を使って演じた方が、次の場面への移行を追いやすく、集中しやすい可能性があるためである。

もう一つは、紙芝居のストーリーに観客が引き込まれて無音になるという場合である。物語の後半などで、考えさせられる場面などでは全体として無音になる可能性がある。

今回測定した無音の時間帯は、いずれも園児たちは画面に集中している様子が映像から明らかである。こうした時間を測定することにより、集中度を測る目安となる可能性もある。

紙芝居を見ながら発話をする子どもたちは、共感の感性やコミュニケーションの力を身に付けていく可能性がある。杉山(2009)は幼児期における話し合い活動がコミュニケーションの発達に促進的な効果をもつと指摘している。紙芝居に示される擬音語や擬態語は園児たちにとって楽しいと感じる要素の一つである。自分の知らない言葉が紙芝居の中で使われ、その模倣を通して言葉や新しいイメージを獲得していくことに繋がるものと思われる。今回の分析でも、紙芝居の実演中に発話する園児たちの様子が捉えられている。「こぶた」という言葉に3歳児が反応して発話をしたり、「ぶう」「えーと」「うーんと」「どぶーん」等の言葉に声を挙げる者も確認された。またこぶたが川に落ちる場面や「ごめんね」と謝る場面にも反応して、園児同士が会話をしている様子なども確認された。

その一方で、今回の分析により、無言で園児たちが紙芝居を見ている時間もかなり長いことが明

らかになった。この時間は決して無駄な時間ではなく、子どもたちが何かに集中したり思考する力を身に着けていくために必要な時間なのかもしれない。今後は他の作品の実演においても、園児たちが無言で集中する時間帯にどのような特徴があるのかについて調査していきたい。

付記

本稿は渡邊（2020）において発表したデータの一部を用いて分析を行い、内容を発展させてまとめたものである。

注

- 1) 紙芝居文化の会（2017）紙芝居百科. 童心社, p.160
- 2) まついのりこ（1998）紙芝居・共感のよろこび. 童心社, p.68
- 3) ELAN
<https://archive.mpi.nl/tla/elan>
（参照日：2021.02.01）
- 4) 高橋五山（作）、赤坂三好（絵）（1971）こぶたのけんか. 童心社, 全8場面

引用文献

- 杉山弘子（2009）幼児の話し合い活動とコミュニケーションの発達との関連. 尚絅学院大学紀要, 57：91-102
- 柳田多聞（2013）一幼児の紙芝居鑑賞中の反応行動. 長崎県立大学国際社会学部研究紀要, 14：255-264
- 渡邊裕（2020）紙芝居実演における保育園児の発話分析, 日本保育学会第73回大会発表論文集, P-16

渡邊 裕（埼玉東萌短期大学准教授）